令和５年度
八代市議会文教福祉委員会　視察報告書

■視察日程

令和５年８月２日（水）～４日（金）

■視察先

８月２日　午後　兵庫県西宮市

８月３日　午前　大阪府岸和田市

８月４日　午前　兵庫県明石市

■視察参加者

【委員会】	委 員 長	中　村　和　美
	副委員長	金　子　昌　平
	委　　員	大　倉　裕　一
	委　　員	友　枝　和　也
	委　　員	橋　本　幸　一
	委　　員	橋　本　徳一郎
【随　行】	議会事務局	小　谷　　匠

■視察先及び目的

１　兵庫県西宮市

『西宮市立こども未来センターの取組について』

西宮市では、発達面や生活面など様々な課題や不安を持つ子供がその可能性を最大限に伸ばすことができるように、福祉・教育・医療が連携し、子供と保護者に対する切れ目のない支援を行うための西宮市の中核施設として、これまでの児童発達支援センター「わかば園」とスクーリングサポートセンターを統合して、平成２７年９月に西宮市立こども未来センターが開設されている。

本施設が開設に至った経緯及び取組等を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

２　大阪府岸和田市

『顔認証技術を活用した登園把握及び子育て支援について』

岸和田市では、昨年１１月に市内保育所に通う２歳児が車内に取り残され死亡する事故が発生し、このような痛ましい事故が二度と起こらないようにするとともに、保育現場のＤＸを推進し、「子ども・保護者の安心・安全の確保」及び「保育現場の負担軽減」のため、子供の登園把握における顔認証技術の効果検証を目的に実証実験が行われた。

岸和田市の顔認証技術を活用した登園把握の実証実験の効果検証及び子育て支援の取組を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

３　兵庫県明石市

『明石市の子育て支援事業について』

明石市では、全国的に人口減少・少子高齢化が進む中、「こどもを核としたまちづくり」「誰にもやさしいまちづくり」を推進することで、２０１２年から人口は１０年連続で増加し続けている。

また、全ての子供達をまちのみんなで、一人ひとりに寄り添いながら本気で応援するため、こども医療費をはじめとする「明石独自の５つの無料化」を先駆的に取り組み、そのほか子育て支援事業も併せて推進されている。

「こどもを核としたまちづくり」に関連する子育て支援事業の取組等を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

兵　庫　県　西　宮　市

１　視察日時　　令和５年８月２日（水）　１４：００～１５：３０

２　調査事項　　『西宮市立こども未来センターについて』

３　調査内容（説明内容）
　※別添資料のとおり

４　主な質疑応答

Ｑ１　福祉型児童発達支援センターわかば園の定員及び利用者数について伺う。また、こども未来センターの全体職員数について伺う。

Ａ１　定員が４５名で、現在利用者は３０名弱となっている。職員数については、令和５年度は１０３名であり、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・保育士等を含めた専門職及び事務職員となっている。

Ｑ２　乳幼児健診などの健診と連携体制は構築されているのかについて伺う。

Ａ２　４か月健診・１歳６か月健診・３歳児健診は集団健診で行っており、個別には、１０か月健診は医療機関に委託をして行っている。健診時に、医師が気になった症状がみられる場合は、健診後にフォローしていく事業があり、保健福祉センターの相談会に参加してもらい、様子を見ながらやはり専門医に診てもらった方がいいとなった場合は、健診医の紹介状でこども未来センターへ通所されるケースもある。

Ｑ３　診療待ちをされている人数について伺う。

Ａ３　肢体不自由児で通院を希望される方は、ほとんど待ちがない状態で、紹介状をいただいてから１か月程度で通院が出来ている。しかし、発達面での診察は、約１８０名から３００名弱の待ち状態である。初診は１時間、再診でも３０分はかかるため、１日に診察できる数が決まってくる。そのため、令和３年度から紹介制を設けており、医師からの紹介状がないとこども未来センターへ通院できない制度とし、診療待ち人数を減らす取組として実施している。

Ｑ４　再診する場合の通院頻度について伺う。

Ａ４　概ね３か月または６か月後に再診に来てもらう状態である。

Ｑ５　あすなろ学級みらいの入所方法又は基準はあるのかについて伺う。

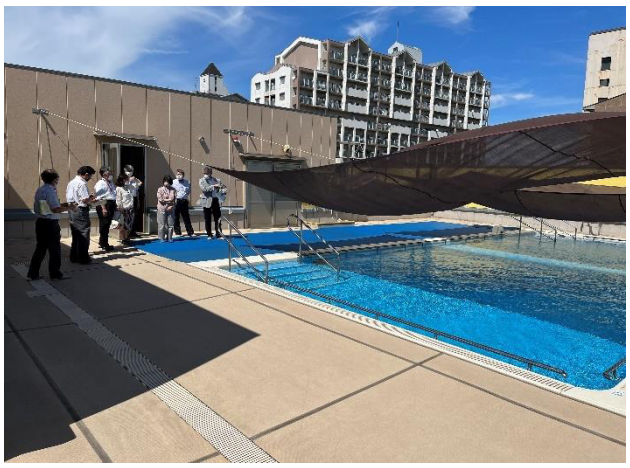
Ａ５　不登校児童の担任または生活指導の先生から連絡があり、施設を見学していただく流れで対応をしており、診断書や医師からの紹介状の必要はない。

※別添資料

・令和４年度事業概要

・施設ガイド

【視察の様子】



大　阪　府　岸　和　田　市

１　視察日時　　令和５年８月３日（木）１０：００～１１：３０

２　調査事項　　『顔認証技術を活用した登園把握の実証実験及び子育て支援について』

３　調査内容（説明内容）
　※別添資料のとおり

４　主な質疑応答

Ｑ１　顔認証技術を活用した登園把握の実証実験を終えられたが、現在は、システムは活用していないのか伺う。

Ａ１　現在、顔認証システムは利用していない。

Ｑ２　コドモンとＮＴＴのシステムを導入する場合の費用について伺う。

Ａ２　どのような仕組み、どのような規模で入れるかによって費用が変わってくるが、例えば、コドモンを使用し顔認証して、コドモンで通知を送る場合は、一番安くて５年間で岸和田市の規模で１，５００万円くらいである。コドモンを使用せず顔認証や通知機能を全部利用する場合は５，０００万円から８，０００万円くらいと試算しており、これには開発費用も含まれているものである。

Ｑ３　ＤＸを推進されている部分もあり、アナログのやり方にもよさがあると思うが、アナログの部分で整理されている部分があるのか伺う。

Ａ３　欠席連絡はアプリで連絡してもらう形になっており、保護者も若い方も多く、特に問題なく使用していただいている。また、以前は欠席する場合、当日の朝に電話をする必要があったが、アプリであれば前日にシステムで連絡することが可能であり保護者の方からは好評であった。アナログの部分は、言われているのが連絡帳であるかと思うが、０歳から１歳などの小さいクラスについては、書くことが多いため連絡帳が残っている。４歳から５歳になってくると書くことが少なくなるため、デジタルで対応するなど使い分けをしている。

Ｑ４　現在、コドモンを利用した出欠確認・連絡は実装されているのか伺う。

Ａ４　顔認証についてはまだだが、ＱＲコードの認証は現在も使用しており、それ以外にも、お知らせの配信等に使用している。

Ｑ５　チビッコホーム（放課後児童クラブ）は全て市で運営されているのか伺う。

Ａ５　全て市で運営を行っており、小学校における余裕教室、特別教室等（空き教室）を活用している。また、待機児童対策として令和４年度に３ホーム、令和５年度

に２ホームの増設を行った。

Ｑ６　夏季臨時チビッコホームの対応について伺う。

Ａ６　夏季期間中も開設しており、通年の支援員が勤務して対応している。基本的に勤務時間は５時間だが、夏季期間中は勤務時間を延ばしてもらい、その時間は超勤として取扱い、報酬の支払いを行っている。また、夏季期間中だけ、支援員とアルバイトの補助員を入れて対応を行っている。

Ｑ７　ファミリー・サポート・センター利用時に怪我をした時の対応について伺う。

Ａ７　大阪府全体でファミリー・サポート・センター事業を統括している部署があり、そちらの保険があるため、利用する際は、個人で保険に加入をしてもらっているため、保険で対応する形となる。

※別添資料

・顔認証技術を活用した登園把握の実証実験について

・チビッコホーム（放課後児童クラブ）～岸和田市の取り組みの現状と課題～

【視察の様子】

兵　庫　県　明　石　市

１　視察日時　　令和５年８月４日（金）　１０：００～１１：３０

２　調査事項　　**『明石市の子育て支援事業について』**

３　調査内容（説明内容）
　※別添資料のとおり

４　主な質疑応答

Ｑ１　０歳児見守り訪問「おむつ定期便」の見守り支援員９人で月最大２，４００人に配達するとあるが、対応等について伺う。

Ａ１　現在、１日あたり約２０件配達を行っている。毎日配達している訳ではなく、１週目は新規の事業対象者の整理やルートの設定などの準備を行い、２週目から４週目にかけて配達を行っている。また、配達日は平日の火曜日から金曜日で、配達時間は午前９時から午後２時までの５時間である。一人当たりの訪問時間は１５分程度で設定しているが、各世帯により時間は変動し、相談が長引きそうな場合は、見守り支援員の判断でその場は切り上げ、市に繋ぐケースもある。

Ｑ２　見守り支援員が相談を受けるにあたっての研修実施について伺う。

Ａ２　令和２年９月の事業開始前に研修を行い、それ以降３年間は新型コロナウイルスの影響により対面の研修はできなかったが、令和４年度・５年度は市が実施する研修を受講してもらうこととなっている。また、市の施策も変わったりするため、主に保護者から聞かれそうな事業の担当部署や最新の明石市の子育て支援策は研修でお伝えしている。

Ｑ３　見守り支援員の訪問等で母親が育児ノイローゼの疑いがある場合もあるかと思うが産後ケア事業等を実施しているかについて伺う。

Ａ３　産後ケア事業も実施しており、おむつ定期便の申請書を郵送する際に、ヘルパーの２時間お試し券及び産後ケアのお試し券も同封している。

Ｑ４　ファミリー・サポート・センター利用者等の会員数について伺う。

Ａ４　明石市のでは、依頼会員が約１，３００名で、提供会員が３００名から４００名程度、両方会員が５０から６０名程度となっている。

※別添資料

・明石市の子育て支援事業について

・０歳児見守り訪問「おむつ定期便」

【視察の様子】

〈〈　各委員所見　〉〉

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【　中村和美　】

◆視 察 日：令和5年8月2日（水）
◆視 察 先：兵庫県西宮市立こども未来センター
◆調査項目：西宮市立こども未来センターの取組について

旧わかば保育園は、昭和42年6月、就学前肢体不自由児の通園訓練施設が必要との保護者の声を受け、開所昭和44年12月1日に厚生省より認可を受け、児童福祉法に基づく児童福祉施設に移行、平成23年4月、通園部内に知的障害児クラスが設置され、平成27年9月より「福祉児童発達支援センター」として、こども未来センターが開所、事業としては、18才迄の子供の心身の発達や療育、福祉サービスに関する事、不登校、情緒不安定や教育に関すること等、保護者の悩みや困ったことについて、専門の相談員が電話や面接を行なっている。平成26年の相談件数は、5,408件、令和3年は、5,711件と増加傾向にあるとの事、相談内容としては、子供の心身の健康、保健が1,472件、不登校が1,336件等である。現施設は、鉄骨造り、地上5階建て、4,112.8㎡あり、1階から、

西宮市立こども未来センター
(NOZ)

中村和美

5階迄、たくさんの相談室や作業療法室、学習室、言語療法室等があり、103名の職員が対応しているが、来訪者の増加で、年間300人前後の子供達が待機状態であり、発達障害の専門医が市内に少なく、医師の確保が難かしいとの事でした。すばらしい施設で職員の皆様の頑張りが、よく理解出来ました。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【 中村和美 】

◆視 察 日：令和5年8月3日（木）
◆視 察 先：大阪府岸和田市
◆調査項目：顔認証技術を活用した登園把握及び子育て支援について

①顔認証技術を活用した登園把握については、昨年11月、保育所に通う、2歳児が運転手の確認不足で車内に取り残され死亡する事件が発生したのを受け、保育所も、登園確認不足で、保護者にも連絡をしていなかった。この件で府と市長がICTの進歩によって、オフィスや工場で、入退室する者の顔認証技術を活用する事を決定、子供や保護者の安心、安全の確保や保育現場の負担軽減に寄与出来ると考え、実証実験を市立保育園1園で行なったとの事、玄関に、カメラを設置し登園園児全員の顔認証を約1年1ヶ月実施したが、園児の顔の経年変化への対応や、保護者同伴の場合のカメラの高さ調整等が課題との事である。

②子育て支援について（放課後児童クラブ）

放課後児童クラブを「チビッコホーム」と名付け

NO、2、

チビッコホーム（岸和田市）　　中村和美

目的として、保護者が労働等により、昼間家庭に不在となる小学1年～6年生の児童に終業後小学校の余裕教室を利用して、遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る目的で創設、23校区に、現在、44ホーム、2,160名のチビッ子が利用している。1ホーム50名で各ホームに、会計年度職員が2名で担当、利用会費は、月額7,000円、延長保育（18時以降）4,500円、利用状況では、1～3年生が32.8％　夏休みも4校が実施中との事、他に、きしわだファミリーサポートも行なっている。生後3ヶ月以上小学校6年生迄の子供を依頼（現599人）、子供を預かる方（協力会員）現158人、料金は、平日700円/時、土、日、祝日、800円/時で、料金は、直接、依頼会員が支払うとの事、令和4年度は、542件あったとの事、今後の課題は、協力会員を増やすとの事であったが、現在夫婦共働きの時代、お互いに、信頼関係を結び、子育ての悩みも、相談出来ると思うのでもっとファミリーサポーターを増やしてもらいたいと思った。八付も、積極的に、やってもらいたい。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【 中村和美 】

◆視 察 日：令和5年8月4日（金）
◆視 察 先：兵庫県明石市
◆調査項目：明石市の子育て支援事業について

0歳児見守り訪問の一つとして、おむつ定期便を行なっている。対象者は、市内に居住する0歳児及びその保護者、0歳児へのおむつ便は、生後4ヶ月から満1歳誕生日迄、最大10回配達、令和2年度（配達月10月～令和3年3月）合計9,360人、令和3年、4年度（2,400人×12ヶ月）28,800人の無料配達である。金額は、1回3,000円程度の赤ちゃん用品（パンパース、ベビーフード、ミルク、布おむつ、おむつカバー）等である。市への申請は、対象者へ「明石市おむつ定期便申請書」を出生届、転入届、提出後、市は、1ヶ月以内に、関係書類を郵送するとの事、現在は、99.5%の保護者から、申し込みがある。

配達は、生協コープこうべに依託して、実施している。配達人は、子育て経験のある女性（見守り支援員）9人が1日約20軒担当して、直接、保護者と面会し、子育ての話や、子育ての悩みを聞いて、

NO.2. 子育て支援（明石市）　中村和美

アドバイスするとの事、同じ見守り支援員が担当するので顔なじみになり、保護者も、安心して相談するとの事、難かしい質問や悩みは、支援員が市の専門職に引き継ぐとの事でした。現在、核家族にて、若いママ様達の子育ての悩みは、多いと思う。子供と保護者を見守る明石市は、0～9歳、20～30歳後半の人口増となっているのは、このようなすばらしい政策が行なわれているからと思った。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【　金子　昌平　】

◆視 察 日：令和５年８月２日（水）
◆視 察 先：大阪府西宮市
◆調査項目：西宮市立こども未来センターについて

西宮市立こども未来センターの開所に至る経緯として、様々な理由による悩みや不安を持つ親子に対して、「こども自身の自分らしい豊かな人生の実現」の支援を行うため、「福祉・教育・医療」の連携による総合的支援の重要性を捉えた中核施設として、福祉・医療分野の肢体不自由児通園施設の「西宮市立わかば園」と教育分野の教育相談・適応指導の組織を再編して開設された「西宮スクーリングサポートセンター」の２施設を平成２７年９月に統合して設立され、医師や心理療法士等の専門医をはじめとする多種多様な職員（１０３名）で運営されている。

こども未来センターの取組には、計画相談支援・診療所・わかば園・あすなろ学級等の運営があるが、計画相談支援として、18歳までの子供の心身の発達や療育・福祉サービスに関わる事、また、不登校・情緒不安定・性格等の教育に関する悩みや困りごとについて、先ずは、専門員による電話相談の支援を行っている。障害福祉サービス等を必要とする子どもに関しては、個別最適なサービスを受けれるように「本人中心支援計画」（正式名称：障害児支援利用計画・サービス等利用計画）の作成やモニタリングを通して、本人や家族の現状把握や希望などを整理した上で、課題や方針などについて、施設内のこども未来センター診療所（診療・リハビリ）や児童発達支援センターわかば園との情報共有、また、教育に関する支援

として、あすなろ学級及アウトリーチ等による学校園（学校、幼稚園、保育所）との連携など横断型組織体制を構築し共通認識を図っている。診療所では、子どもの運動発達の遅れや言葉の発達に対して、より豊かな日常生活を送れるようにするために、医師（1名の常勤）、看護師、「理学・作業」療法士、言語聴覚士、心理療法士等の体制により、子どもの個性に合わせた様々な小児リハビリ支援を行っている。わかば園においては、子どものみの通園ではなく、保護者の支援も踏まえ、親子で一緒に通園する親子通園を基軸として、発達に課題のある未就学児の基本的な生活習慣を改善に導くため「通園療育」を行なっている。その他にも、通園に至らない0〜3歳児を対象とした「親子療育教室」や同教室に入る前の「個別保育」、通園療育を始める前の「体験保育」、地域の保育所や幼稚園に通う子どもの環境改善を訪問して促す「保育所等訪問支援事業」、わかば園を卒園して保育所等に通う子どもの環境改善を訪問して促す「卒退園児アウトリーチ」など充実した切れ目のない支援を行なっている。

子ども未来センターと学校・幼稚園・保育所・地域との連携についても、繋がりを持ち続けることを重要視しており、子どもの日常で長時間を過ごす学校・幼稚園・保育所等の各施設による環境改善に向け、より適切な支援方法を図るため担任の先生をはじめとした教育委員会、行政担当課等の関係機関と密に連携のもと相談に応じて具体的支援策を提案する「学校園からの相談対応」や心理療法士やソーシャル・ワーカー等の専門職員が定期的に学校園に訪問して「知的・身体」の障害がある子どもの教育環境を個々に合わせて改善に導く「アウトリーチ」の支援。さらに大学教授や児童精神科医等の専門家で構成する「西宮専門家チーム」を各学校園に派遣し特別支援教育体制の取組に対して、専門的なアドバイスを行なっている。

また、地域との連携にも注力しており、西宮市地域自立支援協議会、障害者総合相談支援センターにしみや、西宮市保育所、子育て総合センター、他にも、児童発達支援事業所や放課後等デーサービス等とも連携を図っている。

こども未来センターの取組の効果及び成果としては、専門員による相談支援から親子目線になり個々に合わせた本人中心支援計画の作成を進める中、「福祉・教育・医療」の連携による「ワンステップサービス」は障害児を持つ親としても、「精神・労力・経済面」の大幅な負担軽減となり安心感は非常に大きいと思う。また、センター内のみならず、地域の各学校園に訪問して、現場目線による環境改善の促す「アウトリーチ」の取組は、子どもや保護者、さらには担任の先生方にも安心感を与えている。

今後の課題としては、全国的な課題でもある発達障害児の増加傾向により、こども未来センターの需要が高まる中、相談件数も増加し、医師の診察を受けるまでの待機期間が長期期間を強いられている。その理由の一つには、診療所で対応する専門医の増員が必要とされるが、人材確保が非常に難しい状況にある。その間は、不安を抱えたまま待機してもらうのではなく、子育てに対する安心や自信を育成するために、グループワーク形式により、保護者同士の交流の場を設けてお互いの悩みを相談し合う「ペアレントプログラム」で対応しているが、年々増加する発達障害児等の対応を安定化させるためには、やはり専門医等の人材確保の取組が急務である。

本市においても、発達障害児が増加傾向にある中、熊本県立こども総合療育センターにおいて県南全域を懸命に対応されているが、診察の待機期間の長期化、専門医師の人材確保に対する課題はより深刻な状況である。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【　金子　昌平　】

◆視 察 日：令和５年８月３日（木）
◆視 察 先：大阪府岸和田市
◆調査項目：①顔認証技術を活用した登園把握の実証実験について
　　②子育て支援について

岸和田市における保育施設の現状としては、保育施設の施設数は、公立・私立の保育所・幼稚園と私立認定こども園や小規模保育事業、認可外施設を含む 83 箇所の施設で、６，４７９人の受け入れ可能な体制であるが、近年の核家族化における幼稚園離れ等の課題とともに、令和４年度の待機児童数は２５人、令和５年度は２７名となり、隠れ待機児童数も含め増加傾向となり、今後も課題解決策の取組は急務であった。そのような中、顔認証技術を活用した登園把握の経緯として、市立保育園に通う２歳児が車内に取り残されて死亡するという痛ましい事故の経験や保育現場においての人手不足、新型コロナウイルス拡大による保育業務の増加等の課題に対して ICT 技術を用いて「子ども・保護者の安心・安全の確保」と「保育現場の負担軽減」を図るため、子どもの登園把握における顔認証技術の効果検証を目的に、顔認証システムを利用した実証実験を行なっている。実施体制については、岸和田市が実証環境(千喜里保育所:検証参加園児８２名)の準備調整、NTT 西日本が顔認証機能の実装と通知及び既読管理機能の PoC(概念実証)、（株）コドモンが ICT サービス「CoDMON」の運用協力体制であった。その効果検証の効果及び成果として、顔認証は、園児の登園管理おいて、安心・安全、効率的、正確であるため、有効との事であった。定量的検証の顔認精度は、９９．８％と高く０～２歳児も問題なく認

証、認証速度も０．４２～０．９３秒と速いことから、保護者・保育士へのアンケート調査においては、双方とも約８０％が継続利用に肯定的であった。今後の課題においては、子どもの成長に対応した認証の検証、個々の成長に合わせた多様な対応、それらの対応をする保育士の負担軽減、ウォークスルー式顔認証の検知率・精度や認証結果非表示等のより高い安全性の機能、導入時やランニングコストのコストダウン等の課題解決策が求められる。本市においても、「CoDMON」を導入しており、保育現場の作業効率化や保護者間との情報伝達の円滑化に成功している。今後の機能改善や進展に期待を寄せる。

岸和田市の子育て支援施策の放課後児童クラブ「ちびっこホーム」ついては、保護者が労働等により日中不在となる小学生１～６年生の児童に対して、小学校終了後の小学校の余裕教室等を利用して適切な遊びや生活の場を提供し、健全な育成を目的に取り組んでいる。開設状況は、２３小学校に計４４ホームを設置しており、１ホームの定員は５０名、特色としては、各ホームに会計年度職員の支援員を２名配置し、全て市が運営している。利用状況としては、児童数の人口減少は進むものの施設の重要は高まり、利用者と待機児童を含め増加傾向にある。特に夏休みの需要は高まるため夏期臨時ちびっこホームを開設し対応している。職員の配置については、夏季の利用者増加に対応するため、元来より各ブロックに配置してある会計年度職員の補助員やスタッフの募集を行いながら体制を構築し対応している。本市における夏季の放課後児童クラブの課題は同様であり、また、本市特有の民間事業所との連携により運営している事を踏まえ、空き教室等の利用可能な施設の情報提供や緊急的スタッフ増員の為の協力体制等、地域のニーズに対応した課題解決策を講じる必要がある。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【　金子　昌平　】

◆視 察 日：令和５年８月４日（金）
◆視 察 先：兵庫県明石市
◆調査項目：明石市の子育て支援事業について

明石市における子育て支援事業については、「５つの無料化」を基盤に、子育て世代の転入により、出生率や人口増といった好循環を生み出しており、現在の人口は約３０万人の中核市である。その「５つの無料化」は、子ども医療費（高校３年まで）、おむつ定期便（満１歳まで）、第２子以降の保育料（副食費を含む）、中学校の給食費、文化博物館など公共施設入場料の無償化に取り組んでいる。妊娠・出産期から就学後まで、切れ目のないバランスの取れたきめ細やかな施策展開で、所得制限も設けておらず、子どもたちを核としたまちづくりとして、「すべての子どもたちをまちのみんなで本気で応援する」方針を掲げている。

そのような中、「５つの無料化」の公共施設入場料の無償化の取組の一つとして、子育て支援の中核となる施設の「子育て支援センター」を市内５ヶ所に開設している。この施設では、室内遊具等を多種多様に取り揃えており、子どもと保護者が自由に遊んだり、親同士、子ども同士も交流できる場として、非常に多くの親子が利用している。また、乳幼児期にも対応しており、安心して過ごすことができる。さらに、プレイルーム内では、子育てに関する相談を随時受け付けている他、子育て支援講座やボランティアによるふれあい遊びなどを開催し、さまざまな子育て情報の提供も行なっている。また、子育ての情報発信事業としては、明石市の様々な子育て情報を簡単に検索できる総合サイトの「あかし子育て応援ナビ」や子育て情報や親子向けのイベント情報等の提供、子どもの成長記録を登録でき

る子育て日記等の機能、乳幼児健康診査や予防接種の情報等を子どもの成長過程の応じてお知らせする「あかし子育て応援アプリ」の展開をしている。

もう一つの目玉となる子育て支援策の「おむつ定期便」については、保護者や赤ちゃんと出会うきっかけとして、毎月３０００円相当のおむつ等の育児用品を無料（最大10回配達）で届けることにより、子育て世帯の経済的な負担を減らすだけでなく、孤立による児童虐待や育児うつなどを予防するための見守りも含め、令和２年より事業展開を実施している。対象者は、生後４カ月～満１歳の子どもがいる家庭としており、利用者は紙おむつの他、おしり拭き、ベビーフードやミルク等の育児用品（３３品目）が掲載されたカタログから毎月２点を選べる。おむつ定期便の配達員（見守り支援員）は、市から業務委託を受けた「生活協同組合コープこうべ」の専任スタッフであり、月に一度、家庭に配達する仕組みである。「見守り支援員」と呼ばれているスタッフは現在９名いるが、「子育て経験のある人」を条件に募り、採用後は市が実施する研修を受講している。その体制の中で、月最大２，４００人への配達を行なっている。また、利用期間中は、同じ支援員が毎月の配達を担当することで信頼関係を築いている。

おむつ定期便の利用者アンケート調査結果には、「おむつが無償で貰えること」や「子育てで不安なとき、見守り訪問で相談出来て大変心強かった」、「このような制度は他の自治体には聞かないので、明石市に住んでよかった」等、高評価の声が多く寄せられている。

本市においても、明石市の「５つの無償化」に負けない、子育て支援に尽力している。今後の展開としては、子育て支援の強みをブランディングさせるとともに市内外に向け情報発信を強化する必要がある。また、市民の声には、全天候型の子どもの遊び場も必要とある。

文教福祉委員会　行政視察所見

議員名【　大　倉　裕　一　】

◆視 察 日：令和　５年　８月　２日（水）
◆視 察 先：兵庫県西宮市
◆調査項目：西宮市立こども未来センターの取組みについて
◆所見

西宮市の閑静な住宅街に、地上５階建て、延床面積４１１２．５８㎡、建設費１０億９３６０万円のこども未来センターが建設されていた。

こども未来センターとは、昭和４２年に肢体不自由児通園施設として開設された「西宮市立わかば園」と昭和２７年に開設された「教育研究所」を起源とする「西宮市スクーリングサポートセンター」を移転統合し、福祉、教育、医療が連携し、切れ目のない支援を行うことを目的として、平成２７年９月に開設されていた。

「わたしたちは、こども自身の自分らしい豊かな人生を実現するための支援を目指す」ことを基本理念とし、自分らしい豊かな人生を次のように整理されていた。

〇自分の人生の主人公として生きること
「自立」というのは、自分の人生の主人公として生きていくことをいう。
自分で考え、決めて、自分らしく生きていくこと目指す。

〇社会の中で生きがいをもって暮らすこと
自分らしさを生かしながら、社会の中で安心して過ごせる場所や仲間、生きがいをもって暮らしていくことを目指す。

〇学んだことを生かして自分の世界を広げること
人は生涯にわたって学ぶ存在です。学ぶことを通していろいろな考え方を知り、自分の世界をより豊かな充実したものにしていくことを目指す。

知的・精神・身体障がい者や発達障害等をもつ人や、不登校等学校に登校することができない人やその家族に対する相談や支援を行い、施設の中に診療所や保育所を備えた、縦割り行政の枠を超えた、本市にはない施設で、基本理念や考え方に感銘を受けた。

電話相談だけでも年間５８００件という件数をご紹介いただき、施設での相談支援や診療が行われており、人権を尊重された、市民ニーズに対応している施設であると思った。

出生後の検診においても、確実に連携されており、早期発見、早期対応に行政の体制が整っていることに、当事者や家族にとって心の拠り所になるものと思う。

視察冒頭、菅野副議長より、的を射た視察内容を選定いただいた。と歓迎のご挨拶をいただく程、西宮市民にとっても自負されている施設と実感した視察であった。

本市では西宮市のような体制や施設はないが、西宮市のように行政による支援の充実が図られるべきであり、今後の活動の中で参考としていきたい。

◆視 察 日：令和　５年　８月　３日（木）
◆視 察 先：大阪府岸和田市
◆調査項目：顔認証技術を活用した登園把握及び、子育て支援について
◆所見

顔認証技術を活用した登園把握の実証実験について調査を行ったが、その経緯として、昨年１１月に私立保育所に通う２歳児が車内に取り残され死亡する事故が発生したこと。
保育所も登園しなかった子どもの保護者に連絡ができていなかったことが引き金となっていた。

さらに保育現場では、保育士不足や新型コロナウイルス拡大等、保育業務の増加が問題となっており、「子ども・保護者の安心安全の確保」と「保育現場の負担軽減」を実現することが急務となっている。

他方では、ＩＣＴの進歩により顔認証等の生体認証の信頼性が高まってきている。

このような状況の中で、府知事と岸和田市長がいち早く協議を行い、上記の課題解決も含め、子どもの登園把握に顔認証技術の効果検証を目的に、実証実験を行われていた。

国の支持を待つのではなく、政治判断の中でいち早く、現場に沿った実証実験に踏み切られていることに決断の速さから、行政責任の重さを感じるものとなった。

本市では、国の指示に従い送迎バスにセンサーを設置することで対策を講じている。

コドモンシステム利用の委託費用として５年間で１５００万円、全機能の費用として５年間で５０００万円～８０００万円を想定しているとの回答であった。システムの改善も一部必要な点もあるようだが、岸和田市の８３の保育所で運用がなされるのであれば、費用以上の成果につながるのではないだろうか。何より、命に関わる事故が二度と繰り返すことが無いよう対応に動かれた首長の判断を評価したい。

次に、子育て支援のうち、チビッコホーム（放課後児童クラブ）について、

岸和田市では、２３小学校区に計４４ホームを設置、１ホームの定員５０名各ホームに会計年度任用職員の支援員２名を配置しておられた。

事業予算について、利用者からの負担金及び、公費として国・県・市から１／３ずつ

施設の確保については、基本、小学校の空き教室を利用し、空き教室がない場合は、プレハブ等を設置して対応されているとのことであった。

また、利用者負担については、月に７０００円、おやつ代として別に２０００円をいただいているとのことであった。

待機児童対策として、財政にお願いして財源を確保していただいているとの回答であった。

折しも太田郷校区において、待機児童対策が今年度実施されることになったものの、財政力の違いはあるのかもしれないが、本市においても、子どもたちファーストで支援の充実を図っていただきたいと思う。

この他、ファミリーサポートセンター事業も説明をいただいた。

◆視 察 日：令和　５年　８月　４日（金）

◆視 察 先：兵庫県明石市

◆調査項目：明石市の子育て支援事業について

◆所見

明石市といえば、泉房穂前市長が有名で、子育て支援策に力を注いでおられただけあって、子育て支援策の評価が高いと思っている。

今回、子育て支援事業のうち、０歳児見守り訪問「おむつ定期便」を視察させていただいた。

子育て中に最も不安や負担を感じる時期であること。子どもを連れての外出が困難で、家に閉じこもりがちになり、地域で孤立化したり、周囲に支援を求めにくい環境になりやすいこと。虐待等の重篤な事例が最も多い時期であることは、３人の子育てを行った本議員も認識するところである。

この育児に関する不安や悩み、心配事などから誰ひとり取り残されないよう、０歳児養育家庭に定期的に関わり、見守りを続けることで、早期の支援につなげていくことを目的として０歳児の見守り訪問「おむつ定期便」を実施されていた。

おむつ定期便の事業アンケートも実施されていたが、市民の評価が高いものとなっている。本市では現金支給で子育て支援・お祝い金制度があるが、必ずしも子育てに活用されるかは、受給者の裁量による。一般質問の

際、要望としてきちんと子どもの支援に利用していただくシステムづくりを要望した経緯がある。
明石市のように、複数の事業を一本化することで経緯費の削減を図ると同時に養育者の支援を行い、なおかつ、おむつをお届けすることで浄財がきちんと子育て支援として、家庭の負担軽減につながっていることを高く評価するものである。
　議会事務局の方とお話をしたが、市議会議員のなかにも聾唖者の方がおられるとのこと。前市長時代に市民の考え方がだいぶん変わったと感じることがあります。という言葉も印象的だった。
　障がい者が不自由なく生活できるまちづくりを行えば、誰もが幸せになりますね！との私の発言にも共感していただき、明石市の福祉の価値観の高さを感じる視察となった。
　視察に行き所見を書くようになったのも議会改革の一環であったが、次なる取り組みとして、視察の内容を持ち帰り、本市の現状や今後の施策の方針などと照合し、市民の福祉施策に活かすような公式な協議の場が必要ではないだろうか。と考える。

　結びに、視察を受け入れていただいた自治体の方々、視察の旅費をいただいた市民の皆さんに感謝を申し上げ、復命とします。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【　　友枝　和也　　】

◆視 察 日：令和５年８月２日（水）
◆視 察 先：兵庫県西宮市立こども未来センター
◆調査項目：西宮市立こども未来センターの取組について

　西宮市立こども未来センターは、昭和４２年に肢体不自由児通園施設として開発された、西宮市立わかば園と、昭和２７年に開発された教育研究所を起源とする「西宮スクーリングサポートセンター」を移転、統合し、福祉、教育、医療が連携し、切れ目のない支援を行うことを目的として、平成２７年９月に開設されている。

　西宮北口駅から徒歩８分、住宅街の中にあり、地上５階建で一見普通のマンションである。屋上にはプールもあり、非常時には避難所の役割も果たす作りとなっている。

　「こども自身の自分らしい豊かな人生を実現するための支援をめざす」との理念の元、近代的で清潔な施設であり、相談から診療まで充実した施設であった。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【　　友枝　和也　　】

◆視 察 日：令和５年８月３日（木）
◆視 察 先：大阪府岸和田市
◆調査項目：顔認証技術を活用した登園把握及び子育て支援について

　私立保育所に通う２歳児が車内に取り残され、死亡する事故が発生し、大阪府知事と岸和田市長が協議をし、保育現場においても顔認証技術を活用することで、迅速かつ正確な登園把握が可能となり、「子ども・保護者の安心、安全の確保」と「保育現場の負担軽減」に寄与できると考え、子どもの登園把握における顔認証システムを使って子どもの登園を把握する実証実験を行った。

　期間は２０２３年２月１３日～２０２３年３月１４日。実証実験の結果を踏まえて、顔認証は園児の登園管理において、安心、安全効率的性格であるため有効と考える。

　チビッコホーム（放課後児童クラブ）の取組までは小学校における空き教室の活用と、プレハブの増設で対応。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【　　友枝　和也　　】

◆視 察 日：令和５年８月４日（金）
◆視 察 先：兵庫県明石市
◆調査項目：明石市の子育て支援事業について

　全国の自治体から注目される明石市の子育て支援、子どもへの予算を倍、人員を

３倍にしたと言われる。０歳児見守り訪問（おむつ定期便）１００％の申請を目標

に、現在の申請率で９９．５％。

　明石市の子育て支援事業

---

　　① 親子のためのサポート事業

---

　　② 育児支援家庭訪問事業

---

　　③ 子育て情報発信事業

---

　　④ 子育て応援認定事業

---

　　⑤ こども総合支援推進事業

---

　　⑥ あかしこども広場管理運営事業

　それぞれの年代の子育てに密着しており、施設全体の効果として、令和４年度ま

で１０年連続して人口が増加している。

　特に０～９歳までと、２０～３０歳後半の人口が増えている。

　今後の課題としては、市民のニーズに応じた特色のある施設を充実させるとと

もに、既存施設については、利用者アンケート等により検証を行い、ニーズに応じた内容に見直すことが必要であるとのことであった。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【橋本章一　】

◆視 察 日：令和5年8月2日（水）
◆視 察 先：兵庫県西宮市立こども未来センター
◆調査項目：西宮市立こども未来センターの取組について

西宮市立こども未来センターは、これまで個々に運営していた、医療福祉を行う施設と教育施設が老朽化してきた為、これらを統合した施設として医療、福祉、教育が連携した複合施設として平成27年9月にオープンした。この施設により、出生した乳幼児の身体的障害、知的障害の発見対応から、就学児の不登校対応まで、この施設が中心となって子供の医療支援、福祉支援、学校支援はもちろん、保護者の相談まで支援が行なわれている。本来県を行う施設を市で行なわれている事に西宮市の子育て支援に対する思いが伝わってくる。国が子供庁を新設した中で、子育て支援の最先端を行く自治体と言えると思われる。

課題としては、相談件数があまりにも多い為、医師の紹介がなければ受診出来ない制度にしても、予約から受診まで約8ヶ月かかる事で大きな課題と云える。又運営においても、医師、看護師や、作業、言語、心理療法士等のスタッフの確保にも大変苦労されているようである。又教育支援の一つの不登校対策についても、学校、保護者との連携のもと熱心に取り組んでおられるが、他にも6つの不登校対応の施設を運営されているが、全然足らない

状況である。本市においても、西宮市のこども未来センターのような
設施設があれば理想的であるが、運営上無理と思われるが
組織としてこのような総合的な子育て支援の構築が出来れば
利用者としては、ありがたい子育て支援となると思われる。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【 橋本幸一 】

◆視 察 日：令和５年８月３日（木）
◆視 察 先：大阪府岸和田市
◆調査項目：顔認証技術を活用した登園把握及び子育て支援について

岸和田市には、83ヶ所の保育施設があり、当市において昨年11月園児が車内に置きざりにされ死亡する事故が発生した事から、顔認証技術を活用してこのような事故の再発防止策の一環として実証実験が行なわれたとの事である。顔認証技術を活用した登園管理としてタブレット式の2方式とウオークスル式の1台の3台を行い連絡なし欠席者、未認証の園児の保護者へのメール通知及び既読管理について実証実験が行なわれたが、結果として誤認証等他人受入があり顔認証導入については現時点で、時期尚早との事で導入は見送りとなっている。今後更なる機器の性能の向上が急務と言える。~~出欠確認の有用性については~~「コドモン」のアプリを利用した出欠確認の有用性については、目的の効果が認められ導入の方向で進められるとの事で本市においてもこの「コドモン」のアプリは、すでに導入され一部の保育園で活用されているようで今後すべての保育園での導入活用が進められるべきと思われる。

又、ビッコホームは、本市の放課後児童クラブで岸和田市については、すべて市直営で運営され23学校に計44ホームが設置され1ホーム50人の定員でそれぞれ2名の会計年度任用職員で資格を持った2名の支援員で運用されているとの事で、すべての小学校で、市直営で行なわれているのは、

本市と大きな違いであり、本市の未設置の学校での対策として一つの方法でもあると思われる。又岩和田市でも子どもルーム利用の希望者が多く、待機者が多いのは大きな課題と言える。

ファミリーサポートセンターについては、短時間、子供を預かってもらいたい依頼者と預かっても良い協力者が、それぞれ会員となり、ファミリーサポートセンターが、その仲介役となり、双方のマッチングを行う制度で生後3ヶ月以上で小学校6年生迄の子供を対象に行なわれているとの事で、現在依頼会員として599人、協力会員として158人の登録があり、平日で1時間700円、土・日祝日が1時間800円で利用されている制度であるが利用状況は、多くはないようであるが、子育て支援の中で、このような事業があれば、稼ぎ中の共働き世帯にとっては、非常にありがたい制度と思われる。

文教福祉委員会　行政視察所見

委員名【 橋本幸一 】

◆視 察 日：令和5年8月4日（金）
◆視 察 先：兵庫県明石市
◆調査項目：明石市の子育て支援事業について

神戸のベッドタウンとして近年若い世代の増加が続いている状況で「0歳児見守り訪問」として「おむつ定期便」が始まった。0歳児養育家庭に定期的に関わり見守りを続けることで、育児に関する不安や悩み心配等から誰ひとり取り残されることのないよう早期の支援につなげていく事を目的として、3000円相当の赤ちゃん用品と子育情報紙を月1回生後4ヶ月目から満1歳の誕生月まで無料で届け、事業は生活協同組合コープこうべに委託している。この配達員は単なる配達ではなく、見守り支援員と呼ばれ、子育て経験のある人で、市の研修を受講した人が、配達時、保護者と赤ちゃんの様子を確認し、保護者との対話で保護者や赤ちゃんの変化に気付き それを市との連携により対応していくという事で、見守り支援員の質の高さが必要とされると共に、責任の重さが気になる点でもある。この事業が始まって、保護者アンケートで相談された事があると答えた人が約50%という結果は、この事業に対して子育て支援としての効果が出ていると思われる。

他に子育て支援事業として、子育て支援センターの事業として、親子の

交流の場や子育て相談、子育て講習等や育児支援家庭訪問として、産前、子育て応援ヘルパー派遣等周りから支援を受ける事が出来ない家庭の訪問支援をされたり、スマートフォンを利用した子育て情報発信事業として様々な子育て情報を発信したり子育て支援を協力する企業に対して認定する「あかし子育て応援企業」のホームページへの掲載や、子供の居場所つくり事業としての明石別こども食堂、更にファミリーサポートセンター等多岐にわたって子育て支援を行なわれているのは、組織の中で、福祉部ではなく、こども局として、こども専門の部所で組織編成されている事から、多岐にわたっての子育て支援が可能としていると思われる。

文教福祉委員会　視察所見

議員名【　橋本徳一郎　】

◆視察日　：令和５年8月2日（水）
◆視察先　：兵庫県西宮市こども未来センター
◆調査項目：西宮市立こども未来センターのとりくみについて
〇説明：西宮市こども支援局　こども未来部　地域・学校支援課　診療事業課
●西宮市について
・面積 99.96 ㎢・人口約 48 万人・出生者数約 3700 人・死亡者数約 4200 人・世帯数約 22 万世帯・1 世帯当たり人員 2.16 人・年少人口比率 13.58％・生産人口比率 62.25％・老年人口比率 24.16％
●こども未来センター
〇基本構想
　わたしたちは　こども自身の　自分らしい豊かな人生を　実現するための　支援をめざします
〇機能
福祉・医療からと教育から、その両方からの複合的サポートが同一施設内で実施され、近い距離ならではの連携が取れることが最大の特徴
前2施設（療育施設わかば園、スクーリングサポートセンター）の老朽化をきっかけに建て替えを計画。その際「子どもの育ちのためには、福祉・教育・医療が連携して一貫した支援を行うひつようがあり、前 2 施設の機能を再編して一体的な支援を行うとし現在の形となる。
◎基本コンセプト
〇必要に応じた支援の実施：
　その子供ごとに必要性に応じた適切な支援の在り方を考え実施
　-「相談」から入り内容を踏まえて適切な支援を実施
〇「つなぎ」の強化：
　適切な支援を適切な時期に実施するため連携、情報共有の連携拠点
　-センター内での情報システム構築、福祉・教育・医療の幅広い連携、早期発見と適切な支援
〇「専門性」の強化：
　専門性を高め、子供の支援の中心拠点として関係機関との連携に活かす
　センター内での研修、専門スタッフ間の意見交換や協議によるよりよい支援。関係機関への支援や研修
〇学校園・地域の支援力の育成：
　多くの時間を過ごす学校園や地域の環境整備、支援力向上
　-地域・学校支援課の設置、支援会議・アウトリーチの実施、一般・教員向けの専門研修の実施
●こども未来センター診療所
福祉医療ではこどもの発達面を複数の専門スタッフで支える。診察、理学療法、差が要療法、言語聴覚療法、発達検査。医師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理療法士など。
・医療行為のため医師の診察と診断により実施（保険診療）
　H27 から R2 までは保健師からの相談・紹介もあったが、
　R3 からは関連医療機関からの紹介制となる。
　関係医療機関は 2 チーム：A-発達障害の専門外来あり　B-一般小児科等
　リハビリ実施数：

疾患別で自閉症スペクトラム障害（ASD）が最多、次いで知的障害、染色体遺伝子疾患、脳性麻痺と続く。

●通園療育（福祉型児童発達センター「わかば園」）

２歳児から就学前の肢体不自由児、知的・発達障害児に対して年齢や個々の状態に合わせた集団保育、食事指導、各種相談（育児・栄養・進路など）。その他、近隣の保育所児との交流保育、季節行事など実施。

日々の保育場面にこども未来センター診療所のセラピストが定期的に参加し、快適な環境設定や家族などの情報を随時、各部門が情報共有し、支援の充実に向けた連携を図る。

保護者に具体的な療育・育児方法を身につけるため親子一緒に参加（親子通園）

全ての保育室（療育室）には外から観察可能となっており、距離を置いて子供の様子が分かる。

●スクーリングサポート

不登校児の家以外の居場所や相談所的位置づけ。登校可能ならば学校に、登校が難しい場合はここに通う。カリキュラムはあるものの目的は学習の保障と子どもどうしの交流を通じて社会性の確保。

〇あすなろ学級みらい

〇学校生活支援教室（のびのび教室）

〇学校・幼稚園・保育所との連携・支援

〇地域との連携

〇講座・研修・人材育成

・一般向け-市民講座

・専門向け-発達障害セミナー　-身体障害セミナー　-特別支援教育コーディネータースキルアップ研修

・教職員研修企画　・実習生受入　・ボランティア活動（受入）

●感想その他

まず施設のあり方に驚いた。医療的側面と教育的側面を同施設に設置していることで大きなメリットを生み出している。子どもの発達という側面で考えた場合、医療面だけでは療育後の学校生活については情報が不足することが多いし、教育面だけではそれまでの発達からの把握という点で困難な面が多く、医学的アプローチが各教員の学習や経験に頼るところが大きい。

その両面が同じ施設にあることで、説明にもあった中間に位置する課題を相互の協力によって早期解決に結びつく可能性が飛躍的に高まると考える。説明では二つの機能を一つの施設で実施するに至ったのは、それぞれの施設の老朽化が理由ともあったが、関係性が深い機能をまとめたことは子育て支援にとって大きいメリットと思う。対象者の増加には協力機関への指導や市民の意識向上等の啓発を充実することでより子育て支援が充実できるのではないかと考える。本市でも導入を薦めたいが本市は市立病院を廃止している。医療機関の協力がどこまで得られるかが課題になると考える。

文教福祉委員会　視察所見

議員名【　橋本徳一郎　】

◆視察日　：令和５年8月3日（木）
◆視察先　：大阪府岸和田市
◆調査項目：顔認証技術を活用した登園把握及び子育て支援について
〇説明：岸和田市子ども家庭応援部子育て施設課、子育て支援課
●岸和田市について
・面積 72.72 ㎢・人口約 19 万人・出生者数約 1300 人・死亡者数約 2200 人・世帯数約 8800 世帯・1 世帯当たり人員 2.18 人・年少人口比率 12.57％・生産人口比率 59.66％・老年人口比率 27.77％
●顔認証時靴を活用した登園把握の実証実験について-子ども家庭応援部子育て施設課
〇岸和田市の保育事情
・公立-保育所：11（1208人）、幼稚園：22（1005人）
・市立-保育所：4（625人），認定こども園：23（2416人）、幼稚園2（535人）、小規模保育事業所：4（43人）、認可外施設（企業主導型含）：17（647人）/合計83（6479人）
〇実証実験取り組みの経緯
・昨年11月に市立保育所に通う2歳児が車内に取り残され死亡する事故→保育所も保護者も登園しなかった子どもの保護者に未連絡
・現場では人手不足、新型コロナウイルス拡大等による業務増加が問題→保育現場のDXを進め「子ども・保護者の安心・安全の確保」「保育現場の負担軽減」の実現が急務
・顔認証技術はオフィスや工場等の入退出における活用が進んでいる
➡保育現場での顔認証技術を活用して登園把握する実証実験に行う
〇実験概要
・期間：2023年2月13日～3月14日　・場所：千喜保育園（園児83名、保育士約20名）
・実施内容：①顔認証技術活用の登園管理（タブレット式2台、ウォークスルー（カメラ）式1台）②連絡なし欠席者かつ未認証の園児の保護者へのメール通知及び既読管理
・登園には QR コード認証（コドモン機能）の登園管理と並行して顔認証端末設置、クラウドサーバーで情報共有化、保育支援システムに認証情報を取り込み、定時に欠席の連絡がない未登園児の保護者へメール送信、既読・返信がない保護者を保育士が確認し連絡。
〇結果考察
・顔認証-登園管理において、安心・安全、効率的、正確であるため有効
・ウォークスルー（カメラ）式の認証率はタブレット式に比べて低い（カメラ解像度上げて　90.0％）。タブレット式の認証率は高い（99.8％）が高さ等の調節が難しい（歩行可能な園児と抱っこが必要な園児では顔の高さを変える必要があり、抱っこ状態ではカメラに正面を向かないため認証困難）。自分でカメラを見ることができる園児はタブレット画面の工夫で認識率上がる。
・通知・既読管理-出欠確認の自動化は、登園管理において安心・安全、効率的、正確であるため有効　・欠席事前連絡：1W-52％→4W-83％　・出欠確認送付：1W-16 通→4W3 通　・既読率：1W-31％→4W-0％（普段から連絡がない保護者の影響）　・電話連絡：コドモン導入前-1　件/日、コドモン導入後-0.75 件/日、実証期間中-0.43 件/日
〇課題
・顔認証-①園児の経年変化への対応②双子の園児③顔認証カメラの設置要件の明確化④幼児から乳

児連れの大人を含めた顔認証カメラの高さ調整⑤認証 OK/NG が一目でわかる Ui 設計⑥園児の顔写真撮影の対応方法の策定
・自動連絡-①出欠確認メッセージの既読率・回答率の向上②各園にとって適切な出欠確認メッセージの通知タイミングの設計
※8 月にはコドモンで未登園児がいた場合は注意喚起アラートが出るようになる予定。9 月以降にはこのアラート機能に「保護者向けの通知の追加」など更なる改善を実施する方向で検討中。
●感想その他
　実用的な保育現場の DX 活用だと思う。顔認証技術はカメラ解像度やカメラへの顔の位置などに左右され、最終的に保育士による確認は必要。しかし、登園確認と出欠確認に必要な人では減らせると思えた。園児の成長に伴う顔の変化への対応は課題にもある通りだが、この機能が導入され一定の期間が経過した際に「慣れ」によるトラブルに対しても検討が必要ではないかとの印象を持った。

●子育て支援について-子ども家庭応援部子育て支援課
〇チビッコホーム（放課後児童クラブ）
・開設状況：23 小学校区に 44 ホームを設置（定員 50 名/施設、支援員 2 名（会計任用職員）/施設）　・事業予算：利用者負担金及び公費（国・府・市から 1/3 ずつ）
・利用率：17.6（低学年：32.8　高学年：3.9）
・目的：①遊びや異年齢児との集団生活を通して自主性、社会性、創造性を培う②支援員による生活指導により、家庭及び社会において、生活を営む上での必要な基礎的生活習慣を身につける③友達とのふれあいを通じて、情緒の安定を図り、上層豊かな人間性を育てる
・待機児童対策①小学校の余裕教室、特別教室等（空き教室）の活用-R4：3 校区 3 施設、R5-1 校区 1 施設の増設②夏期臨時チビッコホームの開設：R5-4 校区で開設
※エアコン設置等環境整備後に開設・夏休み期間中の待機児童対策（夏期臨時チビッコホーム）：R4・5 で複数開設、定員に余裕のあるホームでの他校区児童受入れ
〇子育て援助支援活動事業（きしわだファミリー・サポート・センター）
・子どもを預かってほしい方（依頼会員）と、預かることのできる方（協力会員）が、会員となって助け合う、子育ての相互援助活動
・依頼会員がアドバイザーに申請、アドバイザーが適切な協力会員を紹介、依頼会員と協力会員が連絡を取り調整、直接報酬を支払う※保険加入あり
・利用実績（延べ）：保育園や幼稚園の開始時間まで 182 件　・保育園や幼稚園の終了後 165 件　・保育所や幼稚園の送迎 79 件　など　※実人数は 20 名程度

●感想その他
　チビッコホームに対する市の対策が積極的で待機児をなくそうという姿勢がうかがえた。本市でも空き教室などの活用を進める様、求めていきたい。
　ファミリーサポートセンターの会員登録は、地域活用という点で良い取り組みだと思えた。利用者が一部にとどまっているのは疑問。長く住んでいる地域の人の利用が多いのか気になり、地域性に特徴があるかとの質問をしたが統計はなかった。制度利用に対して預ける人を信用できるかどうかがカギになるのではなかろうか。

文教福祉委員会　視察所見

議員名【　橋本徳一郎　】

◆視察日　：令和５年8月4日（金）
◆視察先　：兵庫県明石市
◆調査項目：明石市の子育て支援事業について
〇説明：明石市こども局子育て支援課
●明石市について
・面積 49.42 ㎢・人口約 30 万人・出生者数約 2600 人・死亡者数約 3000 人・世帯数約 1.39 万世帯・1 世帯当たり人員 2.17 人・年少人口比率 13.82％・生産人口比率 60.05％・老年人口比率 26.13％-10 年連続で人口増
●0 歳児見守り訪問「おむつ定期便」について
〇事業目的-0 歳児を養育している家庭の特徴
・子育て中に最も不安や負担を感じる時期（特に１人目）
・子どもを連れての外出が困難で、家に閉じこもりがちになり、地域で孤立化したり、周囲に支援を求めにくい環境になりやすい
・虐待の重篤な事例が最も多い時期
◎0 歳児養育家庭に定期的に関わり、見守りを続けることで、育児に関する不安や悩み、心配などから誰ひとり取り残されることのないよう、早期の支援につなげていくことを目的として、０歳児の見守り訪問「おむつ定期便」を実施
〇おむつ定期便-3000 円相当のおむつを生後４か月目から満１歳の誕生月まで（最大 10 回）毎月無料で、子育て経験のなる配達員（見守り支援員）が届ける。その際に不安や悩み、心配なことなどないか声をかけ、赤ちゃんと保護者の見守りを行う。相談内容に応じて、市の子育てサービスや子育て関連施設、関係部署を紹介し、保護者と市の連携を行う。※生活協同組合コープこうべに委託
〇実施と予定数-R2年度：9360 人（R2．10～R3．3） R3年度：28800 人（2400 人/月×12 か月） R4年度：28800 人（2400 人/月×12 か月）
〇見守り支援員-9 名で月最大 2400 人へ配達（約 20 件/日　4 日/週　15 分程度の対談）
・配達と保護者と赤ちゃんの見守り　・子育て経験があること　・市実施の研修を年１回受講
※保護者からの相談もあるが、支援員からの気になる報告が多く出されている
※アンケートでも好評（相談、些細なことでも話せる相手、無償おむつ、買い出しの手間減少等）
〇申請から配達まで
① 市から対象者へ「明石市おむつ定期便申請書」「亜夢津定期便商品カタログ」等同封の「あかし子育て応援パック」を郵送※生後１か月、転入届提出後、1 か月以内に郵送
② 「明石市おむつ定期便申請書」に記入し返送。スマホからも電子申請が可能
③ 申請者に決定通知を送付
④ 明石市より生活協同組合コープこうべに配達と見守りを依頼
⑤ コープこうべの見守り支援員から配達日時の連絡後、毎月家庭を訪問配達
〇選べる赤ちゃん用品-33 品目から２商品を選択（期間中に変更可能）
〇申請状況-R2．4～R4．3：99.5％　R3．4～R4．3：99.6％

●明石市の子育て支援について

〇子育て支援課所管業務

① 子育て支援センター事業（利用者支援事業含む）-①子育て親子の交流の場提供・促進②相談③情報収集・提供④講習等　※市内５か所、出張プレイルームは市内７か所で月１回-読み聞かせ、手遊び、工作、親子ふれあい遊び、座談会などをボランティアも募集して実施

② 育児支援家庭訪問事業-産前・子育て応援ヘルパー派遣

③ 子育て情報発信事業-総合サイト「あかし子育て応援ナビ」

④ 子育て応援認定事業-企業による子育て支援への取り組み促進・紹介「あかし子育て応援企業」の認定と取り組みを市ホームページなどで広く周知

⑤ こども総合支援推進事業-「こどもの居場所づくり事業」（明石版こども食堂）「地域活動支援事業」地域で子育てを応援する基盤づくりを進めるため、地域活動団体による主体的・継続的な児童健全育成活動、子育て支援活動に対して助成※こども応援助成金、こども夢文庫など

⑥ あかしこども広場管理運営事業-子どもを中心とした多様な交流を創出、子供の健全な居場所を提供。次世代を担う子供の育成と子育て支援の推進。明石駅前ビルの5Fワンフロアに開設。運営は一部直営を除いて神戸YMCAに委託

・ファミリーサポートセンター：子育ての応援をしてほしい人（依頼会員-約 1300 名）と応援したい人（提供会員-約３～400 名）を相互援助活動を支援※利用料 700 円/回

⑦ あかし子育てモニター制度（現在未実施）-市の子育て支援施策に反映させるために実施

●感想その他

0 歳児見守り訪問を「おむつ定期便」として実施されていることは利用する側からも、専門職のみの訪問より受け入れやすいと思える。支援員が子育て経験者であること、一定の研修を受けていることも親しみやすく頼れる存在になりやすい一因であると思う。ファミリーサポートセンター制度を岸和田市でも実施されており、支援を依頼する側、支援する側、双方の信頼が無ければ成立しない制度であり、もともと面倒見がよい地域性にもよるという印象を持つ。

おむつ定期便の対象者を 9 人で実施していることに驚いたが、日割りで計算で 1 日約 20 件の訪問で 1 件当たり 15 分の面談であれば（家庭ごとの情報整理が大変な気もするが）可能とも思えた。利用人数から算出するとそれなりの費用が必要となるが、無償の赤ちゃん用品はもちろんだが、支援員による見守り訪問が子育て中の母親は心強いと思える。